

大阪府教育委員会教育長 様

大阪府立牧野高等学校
校長 日笠 賢

学校経営推進費 事業計画書

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

取り組む課題	C 生徒の学力の充実
評価指標	・学校教育自己診断における生徒の授業満足度指標「牧野高校の授業はわかりやすい」の向上 ・国公立大学への現役進学者数の増加
計画名	Class Reform Project of Makino's Action Plan for Paradigm Shift 2020 (CRP MAPPS 2020) (「牧野高校 2020年 大転換計画」のひとつとして実施する「授業改善プロジェクト」)

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	1. 「確かな学力」の育成と授業改善 (1) 次期学習指導要領を踏まえるとともに高大接続システム改革を見越し、大阪府教育振興基本計画の下、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。		
事業目標	①全教員による継続的な授業改善と相互連携で、学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を2020年度までに80%以上にする。(平成29(2017)年度69%) ②「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、ICT機器やネットワーク環境を充実させて、2020年度までに80%以上の教員がICTを活用した授業を展開できるようにする。(平成29(2017)年度59%) ③入学時の学力を維持、向上させるために、生徒に「学ぶ楽しさ」を実感させ、学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への肯定的回答を、2020年度には80%以上にする。(平成29(2017)年度45%) ④国公立大学への現役進学者を2020年度までに卒業見込み者の10%以上にする。(平成29(2017)年度6%)		
取組みの概要	整備する 設備・物品 (概要)	①電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター18台を、第1学年9クラス、第2学年9クラス、計18クラスの教室に設置し、担当する全ての教員が、普通教室でICT機器を利用した授業を展開できるようにする。 ②電子黒板機能により、新大学入試制度を意識した生徒の思考・判断・表現力強化や、英語4技能強化を実現する。 ③第3学年10クラスと少人数展開用3教室の合計13教室については、当面、既存の移動式プロジェクターを占有して使用できるようにし、希望の進路実現に効果を上げるとともに、本件プロジェクトの実施結果を検証し、速やかに、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを設置する方策を検討して行く。	
	取組内容	前年度	①移動式プロジェクターを校長マネジメント経費と外部寄付(銀行の社会貢献事業)等で5台調達し、旧来分と併せ13台が普通教室で使用可能になった結果、ICTを活用した授業をする教員が前年度の52%から59%に増加した。 ②生徒の授業アンケートを分析すると、生徒はICTを活用した授業を好むことが明らかな結果になっている。 ③平成29年度「育成支援チーム」事業に応募し、中堅・経験の少ない教員が本校課題の洗い出しを行い、教員6名からなる授業改善チームが生まれ、都立高校等へ出張、調査研究結果を発表し、校内でICT活用授業の機運が高まった。
		初年度	異動で教員12名が入れ替わり、非常勤講師も9名中7名が交替して若返りが進むとともに、プロジェクターを使用して授業をする教員が大幅に増えた。プロジェクター不利用理由の一つになっている普通教室での移動式プロジェクターの設定ストレスを、固定式に変えて時間効率を上げるとともに、誰にも使い易い電子黒板機能を導入することで、ICT機器利用のハードルを下げて、生徒が喜ぶICT活用授業を展開する教員の裾野を拡大する。
		2年目	学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の回答等を指標として、初年度の結果検証をしつつ、各教科で使用する教材や教授方法等のコンテンツの充実を図るために、外部機関が提供する教員用研修ウェブサービスにも継続加入し、これを活用して豊富なコンテンツによる授業内容の充実、情報の教員間の共有、相互連携等を図り、生徒のICTを活用した授業への満足度を更に上げていく。
		3年目	機器の更なる活用をめざし、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターの一斉配信機能を使って授業中の生徒ごとの理解度把握や、生徒ひとりひとりの課題を掴み、授業進度や予習、復習等に反映させていくことで、生徒の授業に対する一層の満足度を上げていくとともに、始業時間前の朝学(英会話教材配信による英語コミュニケーション力の向上、英語4技能の強化等)への利用拡大などの可能性も模索していく。
	取組みの 主担・実施者	MAPPS 2020 全体プロジェクト・リーダーを任命した中務首席を主担とし、本校が平成29年度に参加した「育成支援チーム」事業の中で形成されたミドルリーダー候補者で、主に授業改善に関する研究を担当し、都立高校等へ出張、調査研究、発表をした6名の中堅・経験の少ない教諭(理科、社会科2名、英語科、数学科、国語科)を中心に、CRP MAPPS 2020 のメンバーに任命して、実施していく。	
成果と評価 検証方法	初年度	①学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を72%以上にする。 ②65%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする。 ③学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への肯定的回答を50%以上にする。 ④国公立大学への現役進学者を卒業見込み者の6%(24名/400名)以上にする。	
	2年目	①学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を75%以上にする。 ②75%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする。 ③学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への肯定的回答を65%以上にする。 ④国公立大学への現役進学者を卒業見込み者の8%(29名/360名)以上にする。	
	3年目	①学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を80%以上にする。 ②80%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする。 ③学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への肯定的回答を80%以上にする。 ④国公立大学への現役進学者を卒業見込み者の10%(36名/360名)以上にする。	

3. 事業費

事業費総額	3,402,000	円
-------	-----------	---

積算内訳

* 決算科目(節)を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。		見積に基づく清算			実勢価格に基づく積算			
科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1							
	2							
	3							
							小計	
2 旅費	1							
	2							
	3							
							小計	
3 消耗需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
5 役務費	1							
	2							
	3							
							小計	
6 委託料	1							
	2							
	3							
							小計	
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
							小計	
8 備品購入費	1	電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター				¥110,000	18	¥1,980,000
	2	インターフェイスボックス、固定金具、配線設置等				¥65,000	18	¥1,170,000
	3	消費税				¥252,000	1	¥252,000
							小計	¥3,402,000
9 工事請負費	1							
	2							
	3							
							小計	
10 負担金・補助 及び交付金	1							
	2							
	3							
							小計	
							合計	¥3,402,000